

二〇一七年一月二二日（参加者一七名）

濃もみぢに染まるルルドの泉かな
 冬ぬくし祈りの小径もとほれば
 碧天へ大王松の色変へず
 谷道のここだ打ち敷く木の実かな
 瞑想の森のベンチに日向ぼこ
 聖堂のマリアに障子明かりかな
 緋れ飛ぶ蝶に見紛ふ散黄葉
 空青し青しと見れば鳥渡る
 神の庭天降るがごとき黄葉かな
 昼暗き祈りの道は紅葉坂
 冬の蠅イエスの像のみ衣に
 塵ひとつなき参礎に一葉落つ
 庭紅葉大王松の下照らす
 二重丸もらへたやうな今日小春
 門前のイエスの像に小鳥来る
 ゴーギャンの色に染まりし庭紅葉
 真白なる聖母マリアに紅葉晴
 小春日のスポットライト
 十字架に空の青さや冬の晴
 冬の鯉池面のマリア像揺らぐ
 聖母像映しルルドの池澄める
 ゴルゴダの丘模す山路紅葉影
 仰ぎ見る頬に触れもす散紅葉

はく子
 はく子
 はく子
 はく子
 はく子
 うつぎ
 うつぎ
 うつぎ
 うつぎ
 うつぎ
 せいじ
 せいじ
 せいじ
 せいじ
 よし子
 よし子
 よし子
 よし子
 よし子
 小袖
 小袖
 小袖
 小袖
 たか子
 たか子
 たか子
 たか子

錦繡の祈りの小道たもとほり
 姫神を祀る社へ冬紅葉
 竹春の小径の洩れ日瑞々し
 支え棒されて古木の紅葉燃ゆ
 孤高なる大王松や冬の晴
 覗き見る塀の死角に冬菜畑
 たもとほる祈りの道の小春かな
 黙想の家凜として白障子
 天からの書信のごとく木の葉散る
 冬日燦両手広げしイエス像
 落葉積む祈りの道は溪深く
 トラピストへと歩を運ぶ紅葉坂
 社殿いま昼を灯して神の留守
 一末社裏参道に年木積む
 な滑りそ仰向き歩く紅葉坂
 木洩れ日を踏みゆく山の落葉道
 ご受難のレリーフ見つつ落葉道
 裏白の風にダンスをすのごとく

みどり
 みどり
 みどり
 みどり
 かかし
 かかし
 こすもす
 こすもす
 菜々
 菜々
 満天
 満天
 わかば
 わかば
 よう子
 よう子
 よう子
 明日香
 ぼんこ
 有香

定例句会みのる選

二〇一七年一月二二日（参加者一七名）